

答 東方一帯は太平洋に面し、國の中部は阿武隈山岳南北に走る、沿岸及中央以南西部の國境土地平坦なり、都會は白河、中村、前者は國の西南部に偏し奥羽の咽喉を扼す。東京を距る汽車六時間程。

三九 岩代の地勢と都會を問ふ

答 此國は奥羽諸國中唯一の海に瀕せざる國にして、四境皆山岳を以て限られ、内地に安達太郎山國の稍々東部を南北に走り地勢自から二分す。西部にも楮苗代湖あり、此湖より發する日橋川唯見川の流域廣く且西部に低下し、水流は皆越後に入る、都會は若松、福島あり、前者の東北に磐梯山あり其南麓は會津の古戰場、後者は福島縣廳の所在地なり。

四〇 陸前の地勢と都會を問ふ

答 西部羽前との境は分水山脈連亘し、地勢漸次東に低下す、東部一面は太平洋に面し北陸中の國境より北上山脈南走し來り牡鹿半島となり仙臺灣を包む。日本三景の一たる松島は灣の西部に在り、都會は東北地方第一の繁華の地たる仙臺市の外北上川口に石ノ巻あり。

四一 仙臺市の位置及狀況を略記せよ

答 陸前の南部に在りて磐城の國境に近く、海岸より三里の地に在り、人口九萬三千を有し、東方地方第一の繁華の地にして宮城縣廳の所在地たり、東京を距る汽車時程十二時間、伊達氏三十二萬石の舊城下にして、現時第二師團司令部、控訴院、第二高等學校の設あり、青葉神社、躰岡ヶ岡及櫻ヶ岡は市内の勝地たり、仙臺平、埋木は此地の特産として名高し。

四二 陸中の地勢と都會を問ふ

答 東方一帯海に瀕し、西羽後の境は分水山脈を以て限り、東海岸に近く又山脈の南北に縦斷するあり、北上川中部を南地に流れ其流域の地平坦なる原野をなす、都會盛岡は殆んど國の中央に在りて仙臺より汽車時程六時半。

四三 陸奥の地勢と都會を問ふ

答 此國は本道の最北に位し又本州の最北端となる、東西北三面海に瀕す、東は太平洋西は日本海、而して北は津輕海峡なり、北に斗出する兩半島を斗南半島津輕半島と呼び、

相扼して陸奥灣を包む、中央分水山脈は斗南半島より起りて南に走り、國の地勢東西に分れ、東部は低地、西部も沿岸は平夷にして地味豊饒なり、都會は弘前、青森にして前者は第八師團の所在地、後者は青森縣廳の所在地なり。

四四 羽前の地勢と都會を問ふ

西方は北の一部海に瀕し他は越後、岩代、陸前、羽後の間に狹まる、國境及國の中央部山岳起伏し唯北部最上川の流域地土最平夷なり、都會は山形、米澤、鶴岡、新庄にして山形は元最上町と稱せり。

四五 羽後の地勢と都會を問ふ

西部一帯は日本海に臨む海岸の屈曲最少く、唯北部に男鹿半島突出して八郎瀨を抱くあるのみ、東陸中との境は中央分水山脈連亘し、支脈内地に延いて中央部に蟠屈し國を南北に分つ、北は能代川南は御物川の流域にして土地平坦耕作に適す都會は、秋田、酒田、土崎、能代にして此中土崎、能代は良港なり。

四 北 陸 道

四六 若狭の地勢を問ふ

此國は北陸道の西端に位し、東西南三面は山岳重疊し、北方一面海に瀕す、海岸線の屈折甚だ多し、國內平地少く耕作に適せず、都會には小濱あり。

四七 陸前の地勢と都會を問ふ

東南北三面の國境は群山連亘し西方は海に瀕す、而して瀕海に近く又一山脈の走りありて中部土地平坦なり、西若狭に近く敦賀灣ある外海岸殆んど屈折なし、都會には福井、武生、三國、敦賀の四ヶ所あり。

四八 加賀の地勢と都會を問ふ

北西は海に瀕す、其沿岸一直線をなして殆んど凸凹なし、南方には白山の脈東西に延き東南部は群山起伏し地勢は海岸に向うて低下す、此國は土地の降下作用最著しく行はるゝ所なりと云ふ、都會は北陸第一の大都會金澤の外に金石、小松、大聖寺あり。亦陶器に名ある九谷は此國に在り。

四九 能登半島の地勢と都會を問ふ

答 此國は日本海沿岸の最大なる半島にして、海中に斗出すること二十里、中央には寶達山脈の支脈蟠屈し北方には耕作に適する地無きにあらねど、過半は碓氷にして民業は漁業製鹽主位を占む、半島の中央東部に大灣入あり七尾灣と云ふ、都會には輪島あるのみ。

五〇 越中の地勢と都會を問ふ

答 北方一帯日本海に面し中央大灣曲あり富山灣と云ふ。東西南三面の國境は悉く峻岳重る、地勢海岸に向うて低下し、河流は皆北流す、都會には富山（北陸第二の大都會にして）古來藥商を以て名あり、高岡伏木あり。

五一 越後の地勢と都會とを記せよ

答 此國は本道第一の大國にして長凡八十里、幅凡十五里、北は日本海に面し他の三方の國境は悉く山岳を以て限る。信濃川（信濃の千曲川の末流）阿賀川（岩代日橋川の末流）兩大河流域は國の東北部に廣潤の平野をなし、地味膏腴なり、都會は新潟、長岡、五泉、高田、直江津あり。

五二 佐渡の地勢と都會を問ふ

答 日本海中に於ける本邦の最大なる島にして越後の北十一里に在り、形分銅の如く、島内南部北部に分たれ、兩部とも東西に亘る山脈あり、其中間は平坦にして耕作に適す、北部なる相川は島内第一の都會にて鑛山を以て其名世に高し。

五三 北陸道著名の二高山と其所在を記せ

答 本道の高山中最著名なるものは立山白山とす、立山は越中の東南部信濃との境に近く聳立し、高さ九千八百尺山中處々に火口ありて硫煙を吐く、白山は加賀の東南部に在り、第三南北派山脈中の主峰にして越前飛騨の兩國に跨り高さ八千八百九十尺、別山、犬汝、御前の三峰あり。此の外高度に於ては右の二山に優るもの本道中二三あれど、二山の如く著名ならず。

五山 陰 道

五四 丹波の地勢と都會を擧げよ

答 此國は本道中唯一の海に瀕せざる國にして、本道の東端に在り、四面國境は山脈を以て限り、内地も南東部を東西に亘る山脈ありて平地少し、都會には龜岡福知山あり。

五五 丹後の地勢と都會を問ふ

答 北方は海に面し沿岸屈曲多く東部の大灣曲を與謝の海とす、武生岬鷲岬相對して灣口を扼す、東南西の國境は山脈を以て限り地は北に低下し、中央由良川の流域土地最廣潤、都會には宮津舞鶴あり、勝地には日本三景の一たる天の橋立あり。

五六 天の橋立の所在を問ふ

答 丹後與謝の灣頭宮津の附近に在り。一帶の砂洲海上に斗出すること里餘老松幾千株之を蔽ひ、長橋の波に伏すが如し、日本三景の一たり。

五七 因幡の地勢と都會を問ふ

答 此國東南西三面の國境は山脈を以て限られ、北方一帶海に瀕するも海岸の屈曲甚稀れに、殆んど一直線を爲す、河流は皆短し、東部賀露川の流稍大なり、都會には鳥取あり。

五八 伯耆の地勢と都會を問ふ

答 此國も亦因幡の如く東西南の三境は山脈を以て限り北方一帶海に瀕す、中央に大山の高嶽あり、河流は皆短かけれども西部日野川、東部天神川の流域平坦なり。海岸線は屈曲稀なれども、西出雲の境に近く夜見ヶ濱長く斗出し出雲の島根半島と對し其東に美保灣を作る、都會は東に倉吉、西に米子、境あり。

五九 出雲の地勢と都會を問ふ

答 東西南の國境より内地中央部に至る迄群峰重疊し北方海岸に近く神門川、簸川の流域平原を爲すのみ、島根半島は國の西部より出で、長く東に屈出し、其東端は伯耆の夜見ヶ濱と對して中ノ海を包み、又半島の中央部本陸の北岸に迫りて瀬戸を作る瀬戸内は尖道湖なり、都會には松江、廣瀬、美保關あり。

六〇 石見の地勢と都會を問ふ

答 此國は東北より西南に延き、其形狭長にして、西北一面日本海に瀕すれども海岸の屈曲は極めて少し、國境の山脈内地に支出し、平地少く交通不便なり、唯東部備後より來る江の川の山脈及西部高津川の流域平坦なり。都會は濱田、大森あり。

六一 隱岐の形勢を記せよ

隱岐は出雲の北方二十七里の海中に在る隱岐にして大島一小島三より成る。大なる島を島後と云ひ、他を島前と稱す、此中西島と呼べるに後醍醐帝里木御所の趾あり、島後の南岸に西郷港あり、各島とも土地礫礪耕種に適せず。

六山陽道

六二 播磨の地勢と都會を記せ

此國は山陽道の最東端に位し、南方一帶播磨灘に面す、沿岸屈曲少し、東北西は攝津、丹波、但馬、因幡、美作、備前に接す、國境は悉く山脈を以て劃し、支脈内地に蟠屈すれども、加古川、市川、揖保川、千草川等の諸川流ありて其流域の地平坦なり、都會は姫路、明石、赤穂、龍野あり、赤穂は四十七士に名高く又造鹽に名高し。

六三 舞子の濱の所在を問ふ

播磨の東部海岸、攝津との國境に在り、明石より兵庫に至る迄の海岸にして古來有名の勝地たり、松を以て有名なる高砂其西に連る、淡路島の北端は正面近距離に在りて殆んど相應答すべし。

六四 美作の地勢と都會を問ふ

此國は山陽道中唯一の海に瀕せざる國にして、播磨、備前、備中、伯耆、因幡五ヶ國の間に介在す。四境悉く山岳を以て限られ、中央亦山脈の南北に横斷するあり。唯旭川、吉井川等の流域土地稍豁けたり、都會は津山、倉敷あり、兒島高德が櫻樹に赤心を題せし遺蹟といふ院ノ庄は津山の西に在り。

六五 備前の地勢と都會を問ふ

南方海岸屈折甚多く、兒島半島は國の西南部より遠く東北に向うて斗出し、其中に兒島灣を形成す、東北西の國境は多少山岳の起伏なきにあらねど、美作より來る高田、津山の二川(此國に入りて西大川、東大川となる)流域土地開け、内地概して平坦なり、都會は岡山を最とし、外に國內の名津たる牛窓蠟石を産する三石、刀劍を以て名ある長船、陶器に著はる、伊部等あり。

六六 岡山市の所在及狀況を問ふ

岡山は本道中安藝の廣島に次ぐ大都會にして、備前の南西部兒島灣に近く西大川に

跨る、岡山縣廳の所在地にして第三高等學校醫學部の設あり人口五萬八千餘、神戸迄汽車時程五時間餘。

六七 備中の地勢と要港を問ふ

此國は其形東西に狭く南北に長く、又瀬海の部分甚少し、北部の地は山岳の起伏多しと雖南方に向うて漸次平坦に、中央を流るゝ、大川の流域廣し、港は東に玉島西に笠岡あり。

六八 備後の地勢と都會を問ふ

南部一帯の海岸屈折多く、附近島嶼も少からず。北部の國境には群山重疊し、中央にも一帯の山脈東西に亘るを以て地勢南北に分たる、河水は此山脈を境して南と北とに分流し、南には蘆屋川あり北には三次川あり、其流域土地開けたり。都會には福山尾ノ道、三原、鞆ノ津、三次あり。

六九 安藝の地勢と都會を問ふ

此國海岸線の屈折頗多く、従つて港灣に富み、沿岸島嶼多し、内地は群山起伏し、

大田川西條川の流域を除くの外殆んど平夷の地なし。都會は中國第一の繁華の地たる廣島あり、又宇品、吳の兩港あり吳は海軍鎮守府の所在地たり。

七〇 廣島の所在及狀況を略記せよ

廣島は山陰山陽兩道中第一の大都會にして、人口十一萬三千餘、口數の多きこと本邦都會中の第七位に在り。安藝の沿岸中央部に在りて太田川に跨る。神戸より汽車時程十三時弱、交通頻繁市街頗る殷盛なり。廣島縣廳、第五師團司令部、控訴院の設あり。明治二十七八年の役聖上大纛を此地に進め玉へり。

七一 周防の地勢と都會を問ふ

南方海岸線の屈曲多く、其東部は長く海中に突出す。北西の國境山岳多く、中央を西北より南に向うて一支山脈の横斷するあり。東は岩國川、西は佐波川の流域土地稍開けたり。都會は山口、徳山、三田尻、岩國、室津、にして岩國は錦帯橋を以て著名なり。

七二 長門の地勢と都會を問ふ

答 本道の最西に位し、北西及南の一半は海に瀕す。北は日本海、南は周防灘、西は響灘なり。海岸線の屈曲多く五六の屬島あり。東南の國境より山脈内地に延き平地甚少し。河流は南西北の三方に分流すれど孰れも長大ならず。唯北東なる阿武川の流域稍長濶なり。都會には下ノ關及萩あり。

七三 下ノ關の所在と狀況を略記せよ

答 長門西南端岬角の地に在り。赤間關又は馬關とも稱す。特別輸出港の一なり。僅に六町餘たる下ノ關海峡を距て、豊前の門司と相對して瀬戸内海の咽喉を扼し、内外の船舶常に輻輳す。此地に安德帝の御陵あり又此地より産する赤馬關硯は其名聲天下に普し。廿七八年戰役清國媾和の際所謂下ノ關條約の締結せられし所なり。

七 南 海 道

七四 紀伊の地勢と都會を問ふ

答 紀伊山脈國內に起伏して平夷の地少く、東南西の三面太平洋に瀕し、國內の河流亦此三方に分派す。國の西北の一部は大和の吉野山麓より發する紀ノ川の流域の地平

且にして耕種に適す、都會は和歌山、田邊、新宮等あり。産物は綿フランネル、紀州蜜柑最著名なり。

七五 高野山と和歌の浦の所在を記せよ

答 高野山は弘法大師の開基に係る金剛峰寺の在る所にして、和歌山より紀ノ川を溯ると一里に在り。和歌の浦は一に明光の浦と稱し、和歌山市の西南に在り、風光を以て古來有名なり。

七六 那智瀑の所在を問ふ

答 紀伊の中央なる大塔峰の南東那智山中に懸る。高さ四十餘丈幅十八間本邦屈指の名瀑にして遠く熊野海上より望見すべし。

七七 淡路の形勢と港を問ふ

答 瀬戸内海の東端四國と本州の間に介在せる島國にして、大阪灣の口を扼し東は紀伊和泉に、西は四國に、北は播磨に各海峡を隔て、相對し、周圍四十里強、面積三十六方里餘、島内著しき高峰なしと雖、山嶽多くして平地少く村落は海岸に遍在す、然れ

ども其平地は脊腹にして耕作に適し、且四周海なるを以て魚介の利少ならず、人口の稠密の度は本邦第二に居る、東南に洲本由良の二港西北に福良港あり。

七八 淡路と本州及四國間の海峽の名と其所在とを示せ

答 東紀伊和泉の兩國に對する間を由良海峽と云ひ、北播磨に對するを明石海峽と云ひ、西四國に臨めるを鳴門海峽と云ふ。

七九 阿波の地勢と都會を問ふ

答 四國の東南部に於て東は紀伊海峽に、南は太平洋に面す、西北讃岐土佐の國境より四國の山脈延いて内地に蟠屈し、地勢概して險峻、唯北部吉野川の流域土地開け交通の便多く肥沃にして農産物に適し、中にも藍の産出は此地を以て本邦第一とす。都會は徳島、撫養、池田、富岡等あり。

八〇 徳島市の所在及特産を問ふ

答 徳島は四國第一の大都會にして人口六萬二千餘、阿波の東北部吉野河口に在り、蜂須賀侯の舊城市にして、水陸運輸の便あるを以て商業殷賑なり、産物阿波縮世に名あり。

八一 四國第一の大河を問ふ

答 吉野川一に四國三郎と稱し、四國中部の瓶森山に發し、東に流れて阿波に入り其北境に沿ひ東向して徳島市の近傍より海に入る、全長四十餘里下流四派に分れ本流を廣戸川と呼ぶ、流域は有名の産藍地たり。

八二 讃岐の地勢と都會を問ふ

答 東北西三面は瀬戸内海に臨み、近海島嶼多く小豆島最大なり、南方阿波の境は四國山系の一脈連亘し延いて内地に及び地勢は北方に向つて漸次低下す。河流は一として長大なるものなけれど、其流域は地味豊沃農産物に適す。都會高松、丸龜、多度津あり、高松は此國海岸の中央部に在りて、大阪へ海上四十六里、丸龜は高松を西に距る七里、第十一師團司令部の設あり。

八三 讃岐の古戰場と其歴史を問ふ

答 高松の東北五剣山の西に在る屋島は源平の古戰場にして、安徳天皇内裡の蹟今猶存

せり。壽永中平氏茲に行宮を營み、安德帝を奉ず、阿波の人田口成長來り屬し勢大に振ふや乃ち京師の亂に乗じて福原の舊都に遷りたるが、一ノ谷の敗後復遁れて此地に據るに至る。義經舟師を率ひて來り遂に火を高松の里に放つ。宗盛等天皇を奉じて舟に上る、義經復た行宮を燒く、平軍利あらず退いて志度を保ちしが、源軍に追撃せられ遂に敗績して西海に奔れり、彼的那須宗高扇の的を射たるは此屋島なり。

八四 小豆島の位置形勢を問ふ

答 讃岐の東北播磨洋の西部に在り讃岐本土寒川郡大串岬の北一里十二町に位す。東西凡四里南北凡三里餘周回三十一里弱、人口約四萬強あり、島中の一高峰を星ヶ城山といふ、島の南端草加部灣あり碇泊に宜し、又西に方りて屬島なる豊島あり。

八五 伊豫の地勢と都會を問ふ

答 四國の北西部を占め、北西海岸一帯屈曲甚だ多く數多の岬灣を爲す、南方土佐の國境は四國山系東西に亘り、其中央石槌山一支脈北に延いて海岸に達し、地勢自然東西に兩分せらる。東部は肥後西部は肥後相半す。都會は松山、宇和島、今治、西條、三ヶ津濱あり。

八六 伊豫の岬角を問ふ

答 國の西方より長く斗出するは佐田岬にして、豊後の地藏崎と相對して佐賀關海峡をなす。北方には大隅の鼻突出し、讃岐の三崎と東西相對して伊豫灣を抱けり。

八七 道後温泉と別子銅山の所在を問ふ

答 道後温泉は伊豫中部の瀬海より遠く離れず松山市の東方一里餘の處に在り、著名の温泉にして浴客四時絶えず、別子銅山は國の東南四國山系の南麓に在り。

八八 伊豫に屬せる島嶼の名を問ふ

答 大三島、大島、伯方島、弓削島、生名島、岩城島、興居島、忽那島、怒和島、津和地島、日振島、戸島等なり。

八九 土佐の地勢と都會及物産を記せよ

答 四國の南部に位して其形鎌の如く、四國第一の大國なり。東北西三面の國境は四國山系連亘し、支脈内に入り數多の峻岳を起し平地甚だ少し、南方一帯は太平洋に面し

東西の兩岬相對して中に大灣曲を作る、土佐灣是なり。河流は皆南向して之に注ぐ、海岸の地一帯平夷なり。都會は高知、中村、赤岡、高岡、安藝、須崎等あり。物産の主なるものを鯉節、珊瑚、紙等とす。

九〇 土佐の東西兩岬角の名と土佐灣海線の長さを問ふ

答 東は室戸岬にして西を蹠鹿岬とす。兩岬相對して擁する土佐灣の長さ凡一百里水は甚だ深からず、白鳳年間大地震ありて此國の南部一帯の地陥落して海となれりと傳ふ。

八、西 海 道

九一 九州往古の稱號如何

答 往古は筑紫と稱す。現今の筑前國に太宰府を置きて統治せしが、後鎮西府を置きしとありしより、又九州を鎮西と呼べり。

九二 九州諸山脈の名目を問ふ

答 九州南部山脈、小松山脈、筑紫山脈、肥前山脈、及阿蘇、霧島の兩火山脈是なり。

九三 九州鐵道線を問ふ

答 門司を起點として博多、鳥栖、熊本、八代に至り、鳥栖より西に分岐し佐賀、大村を経て長崎に達するの支線あり。若松より向井に達するもの、直方より幸袋に達するもの、其他小まり行橋に至り更に延て後藤寺に達する者あり。

九四 筑前の地勢都會及産物を記せよ

答 九州島の北端に位し、東疆に疊峰重疊し、南走して更に西北に赴く。沿海の地には岬灣島嶼錯雜し、曠衍の地に乏しと雖、東西に二大河ありて、灌溉運輸の便多く、土地豊饒なり。都會は福岡(博多を合せて一市とす)秋月、甘木、直方、太宰府等あり。物産は米、麥、大豆、石炭、製造品には博多織最名高し。

九五 筑後の地勢都會産物を記せよ

答 此國は九州最小の國にして面積僅に八十餘方里、東南の國境は山嶽綿亘すれども本島第一の大河たる筑後川の巨流西北を繞り、其流域土地平衍地味亦膏沃五穀に適す。西方一帯は筑紫海に臨めり。都會は久留米、大川、柳川、大牟田、産物は製作品には

久留米飛白、木蠟、紙、油、農産は米、麥、榎、大豆等なり。

九六 豊前の地勢都會産物を問ふ

九州の北端に在りて北方一帯周防灘に臨み、地勢は山脈北部より起り南走して東西に岐れ、西南部の國境は概して峻岳重疊し、北方海に近づくに従うて平野多し、都會には小倉、門司、中津、宇佐あり。産物は製作品に小倉織、鑛物に石炭、硯材、農産に米麥あり。

九七 早鞆の瀬戸下の關海峽の所在を問ふ

豊後の北部企救郡長く海中に斗出し、其極端門司町と長門の下ノ關と相對する間を早鞆の瀬戸といふ、瀬戸内海の西口なり。

九八 耶馬溪の所在を問ふ

豊後の下野郡上津村に在りて中津を距る三里餘。山國川沿岸數里の間を云ひ、鐘山の支脈山國川と縈圍並馳して自然の奇觀を呈せるものなり。

九九 宇佐八幡宮の所在を問ふ

豊後宇佐町の東部宇龜山に鎮座す。官幣大社にして和氣清麿の故事を以て史上に名高く、境内廣潤社殿莊嚴天下有數の大社にして朝廷の御尊崇殊に篤し、應神天皇、比賣大神、神功皇后を祀る。

一〇〇 豊後の地勢都會物産を問ふ

九州の北部東邊に在りて東は硫黃灘、及別府灣に臨み、北は周防灘に面し、西は兩筑及肥後に接す。沿岸の屈折極めて多し地勢は美彦の山脈西より起り、數派に別れて國內を走り、又三面の國界を劃し、平地少けれども大野川の流域土地稍開けたり。都會は大分、杵築、臼杵、佐伯、佐賀關、竹田等あり。産物は農産に米麥、製品に疊表豊後紋あり。

一〇一 豊後の港灣を問ふ

此國の東部海岸中四大灣あり中央に別府灣、北に杵築灣、南に臼杵灣、佐伯灣是なり。是等の外港の主なるものを擧ぐれば高田、竹田津、富來、鶴川、安岐、守江、杵築、日山、別府、大分、鶴崎、佐賀關、佐伯、津久津とす。

一〇二 豊後の岬角を北部より順次に擧げよ

答 鍾崎、地藏崎、楠屋崎、蒲戸崎、鶴見崎。

一〇三 豊後の著名なる温泉及其附近の熄火山を記せよ

答 國の北境に近く速見郡内に別府、濱脇、觀海寺、鐵輪、柴石等の諸温泉あり。此中別府、濱脇、殊に著はる、附近に鶴見嶽、由布嶽あり孰れも噴火山にして、此附近往古より温泉多きは兩山の火山作用に由ると云ふ。

一〇四 肥前の地勢と都會及物産を問ふ

答 此國は九州の西北端に位し、東北部筑前筑後に接する外は悉く海に面せる一大半島にして、其半島は復數多の小半島を作り、海岸線屈折の多き事本道第一たり。附屬の島嶼亦多し、東北は山を負ひ土地稍險惡なれども南北筑紫海の沿岸筑後川の流域土地開け肥沃九州に冠たり。都會は長崎、佐賀、佐世保、伊萬里、有田、蓮池、産物は米、麥石炭も多かれども、殊に著名なるは五島の鯨、有田焼、伊萬里焼にして、有田、伊萬里は本邦最大なる陶器製造地たり。

一〇五 長崎の所在及狀況を記せよ

答 肥前國彼杵半島の南部に在り、五港の一にして我國最舊の開港場たり。今は長崎縣廳の所在地にして、泰西の文明我國に入り來りし關門は此地なりと云ふも可なり、港内水深く内外の船舶常に輻輳し貿易盛に行はる人口は現時十五萬を越え、殆んど五港中の大都會なり。

一〇六 肥前の港を擧げよ

答 長崎、島原、佐世保、名古屋、唐津、是なり。

一〇七 肥後の地勢都會物産を問ふ

答 此國は九州の中部に位せる本道大國の一にして、西部一帯は有明洋及び天草洋に面し、他の三方は薩摩、日向、豊後、筑後に隣る、三面の國境峻嶺起伏東南殊に險峻、西方沿海の地多くは平夷なり。都會は熊本の外に山鹿、川尻、宇土、八代、佐敷、人吉等あり、産物は各種の農産に富むと九州第一にして殊に肥後米は世に名高し。

一〇八 熊本市の所在及狀況を問ふ

答 肥後國飽託郡の中央白川と坪井川との間に挾れる處に在り、人口五萬五千餘口數に

於ては遠く長崎に及ばずと雖、其繁華なるとに至りては九州第一に位すべき大都會にして、加藤清正の築ける有名なる熊本城は今第六師團の置かるゝ所たり。西南の役谷將軍の連月固守せしは人の能く知る所、市街も大抵當時の兵燹に罹りしが爾後漸次復舊して宏壯の建物櫛比するに至れり。熊本縣廳、第五高等學校此地に在り。汽車七時間にて門司に達するを得べし。

一〇九 天草島の所在を問ふ

答 肥前肥後之間に介在し(肥後に屬す)筑紫海の口に横る、東を上島と云ひ西を下島と云ふ。

一一〇 九州第一の活火山と其所在を問ふ

答 阿蘇山にして肥後の北東部に在り、五峰雲際に聳立す。最高を高岳と云ひ、海面を抜くと五千二百三十尺古來著名の活火山にして、今尙硫煙を吐き、山麓に温泉多し。

一一一 日向の地勢都會物産を問ふ

答 九州の南東に位し、東方一帯日向灘に面し、他の三面は豊後、肥後、薩摩、大隅に接す、地勢は概して平原少く、山岳起伏連亘して波濤の如し、殊に西の國境は九州中部山脈南北に走る。此故に人煙稀疎耕地少く産物も材木、椎茸の如き山林産物を主なるものとす。唯東方一帯の沿岸のみ稍平夷なり。都會は宮崎、都城、延岡、佐土原、細島、高鍋等なり。

一一二 九州中大河の最多き國と其川名を問ふ

答 大河の多きは日向にして川名は五箇瀬川、美々津川、一ノ瀬川、大淀川是なり。

一一三 霧島山の所在を問ふ

答 日向の南西大隅の國境に在り、其最高峰は高さ五千五百尺餘霧島火山脈の主峰にして睡眠火山に屬し、不時に鳴動して煙灰を飛ばすもあり。

一一四 大隅の地勢産物を問ふ

答 九州の南端にして、西の一部は薩摩灣、南方は外洋に接し餘は日向薩摩に接す。地勢は東北の國境及南部は山脈連亘起伏し、薩摩灣沿岸の北部稍平坦の地多し。産物に煙草、砂糖、鯉節等あり。

一一五 薩摩灣内の島及其中の噴火山の名を問ふ

櫻島と云ひ周圍十里、島中の火山を櫻島岳と云ふ。

一一六 種子島及其附近の島嶼を記せよ

種子島は大隅の東南數里の海上に在り周圍三十八里、天文年中葡萄牙人の始めて島銃を傳へし所なり。其西南に屋久島(周圍十六里)あり。此兩島より南方に離れて大島(周六十里)徳ノ島、鬼界島等あり皆大隅に屬す。

一一七 薩摩の地勢都會産物を問ふ

大隅と並びて九州の南端に在り。西は外洋に面し、東は一半は鹿兒島灣に臨み一半は大隅薩摩に接し、北は肥後に隣る、國內山岳多く平地甚だ少し。東方鹿兒島灣に臨める地は海深く波靜にして碇泊に便なり。西岸は屈曲極めて少く従つて良港に乏し。都會は鹿兒島、川内、阿久根、谷山、出水、産物は甘藷、煙草、鯉節等にして米穀は不足を生じ日向より供給す。

一一八 鹿兒島市の所在及狀況を問ふ

鹿兒島市は薩摩の東北隅大隅との國境に近く鹿兒島灣に臨む、背後には城山あり前には櫻島を控ふ。人口五萬八千、本島屈指の大都會にして島津氏の舊城地たり、城山は西南戦争の際西郷隆盛戦死せし所なり。

一二九 薩摩の島嶼を問ふ

肥後の國界に近き海上天草島の南に長島あり、之より西南に離れて上、中、下の甌島あり、國の南端を離る、十里の海上に硫黃島、黒島、竹島あり。

一三〇 壹岐の形勢を問ふ

九州の正北に在る孤島にして、肥前唐津を距る七里餘の海上に在り。我國最小の州にして面積僅に八方に過ぎず、海岸は屈曲多く良泊少からず、内地は山岳起伏して低地少なけれど地味は肥沃にして穀類の産出比較的に多しと云ふ。小都會勝本あり。

一二一 對馬の地勢を問ふ

位置は壹岐の北東十二里に當りて朝鮮海峡に横はり、上島下島の二島より成る、面積四十四方里、古來朝鮮と交通の要路に當るを以て津島と稱したりと、内地は丘陵多

く平地至つて稀をり、都會は下島に巖原あり、宗氏の舊城地にして今は長崎縣の島司廳あり、産物は馬を主とし、其他海産物は夥し。

一三三 琉球の位置形勢を問ふ

琉球は薩摩の與論島より南西に連點せる大小五十五の群島より成り分ちて沖繩群島、石垣群島、宮古群島と爲す。面積合計百五十七方里、地勢は一般に丘陵多く平地稀なり、地味は肥瘠相半するも灌溉の便を缺くを以て耕種に適せず、氣候は終歲温暖にして寒を知らず。

一三三 琉球諸島中主なる島名を擧げよ

沖繩島最大にして、宮古島石垣島入表島之に次ぎ、其他伊是那、久米慶良間、永良部、波照間、與那國等を主なるものとす。

一三四 沖繩島の地勢都會産物を記せよ

沖繩群島の中、沖繩島最大にして東北より西南に延くと凡四十里、幅は一里乃至八九里あり、全島を三區に分劃し、北を國頭、中を中頭、南を島尻といふ。右の中、中

頭、島尻の二區は山岳少く平地多きも國頭は山脈南北に連れり、都會は島尻の西南に那覇あり。其東一里許に首里あり。那覇は琉球第一の都會にして人口四萬二千餘、沖繩縣廳、師範學校、中學校あり。東京より五百七十餘里首里には第六師團の分營あり、産物は甘藷、甘蔗、砂糖、泡盛、飛白綿等を主なるものとす。

一三五 宮古島の位置地勢産物を擧げよ

沖繩島那覇港の西南六十六里の所に在り、島形三稜形をなし、近海暗礁多し、内地は肥沃の原野多く、島民は耕種紡績を業とし、名産は甘藷に飛白なり。

一三六 石垣島の地勢産物を記せよ

石垣島は宮古島の西凡二十六里に在り、其西凡六里に在る入表島と共に石垣群島中の最大島とす。(石垣島以西の島嶼を一に八重山群島とも稱す)、兩島共四面多くは斷崖にして碇泊に便ならず、石垣は北部山岳多けれど西南部は原野開け入表は内地山岳縦横に連亘す、産物は、甘藷、甘蔗、砂糖、藍、琉球餅、其他沿海魚介の利多し。

一三七 沖繩縣の風俗を問ふ

答 概して温厚和順言語文字は畧内地の制に倣ふ。颶風ある爲め家屋の構造低し、家の周囲は石垣を繞らし内部の構造畧内地の農家に等し、衣服は綿布麻布、芭蕉布、上布類を用ひ、男子は潤袖の單衣にして長ク甚だ短し。但し、上流は等身の服を着くるを常とす。女子は長き上衣を着け左衽右衽相交れり。食物は主に甘薯にして蘇鐵の實豚肉等をも食し、最も火酒を好む。男女共束髮にして男子は兩髻女子は一髻を用ふ、上流は履を穿てども一般下流の民は跣足なり。

二二八 琉球の民業を問ふ

答 民業は農を以て主と爲す、之に亞ぐは商にして紡織其他の工業を營むもの亦少からず、商業は多く女子の所掌にして、男子は概ね逸食し、女子は専ら勞力に従事す。牛馬豕牧養の盛なるは諸島相伯仲す。

九、北海道

二二九 北海道の住民を問ふ

答 本道の主要なる地は本州人移住し開拓耕耘等萬事を經營しつゝあれど、猶「アイヌ」と名くる土着の人種あり。未開にして言語風俗本州と異り、男女皆被髮跣足のもの多

く、夏日は「アツシ」と稱する、楡樹の亞皮を以て織りたる上衣を被り、左衽して女子は一般に交身し、男子は外出の際小刀を帶ぶる風あり。此人種は往昔蝦夷の大部に住せしが、現今は大和民族の移住に迫られ其口數二萬に足らず。

二三〇 北海道の外國貿易は如何

答 本道の外國貿易は函館港に依りて行はれ、神戸、横濱、長崎等に比すれば微々たりと雖、逐日盛運に向ふと云ふ。輸出物は重に海産物にして輸入物は米、茶及製造品を主なるものとす。

二三一 渡島の地勢都會を問ふ

答 北海道の西南端に位し、北の一部本島に連る外悉く海に面せる一大半島にして南は海峡を隔て、本州の陸奥と對す、地形畧石鑿形を爲し、内地の中部は山岳諸所に起伏すれども沿海の地平坦なり。河流は東西南三方に向て注ぎ長大のものなし、都會は本道第一の繁華の地たる函館の外福山、江差あり。

二三二 函館の所在及狀況を問ふ

函館は渡島國の南部に在りて渡島灣の北岸に臨む。人口八萬餘本道第一の大都會にして、我國五港の一なり。港内廣濶水深きを以て船舶の碇泊に適し、北海道の貨物は皆此地に集る。此港は徳川氏の世未だ隆盛に趣かざりしも明治維新後頗ぶる繁華の區となれり。陸奥の青森を距る二十餘里。

一三三 五稜廓の所在を問ふ

五稜廓は函館の北一里に在りて幕府の經營に係る砲臺あり、形ち五稜を爲す、維新の際榎本武揚、大島圭介の劇戦せし所にして史上に名あり。

一三四 後志の地勢と都會を問ふ

後志は渡島の北に連りて日本海に面す。地形狹長南より東北に延く、南部は膽振に隣り、其國境一帶の山脈にして、沿海には平地多し。海岸線は屈曲多し、中部より稍北に當りて後志川膽振より來りて此國を貫流す。東北海中に斗出する尖端を積丹岬と云ふ、都會には小樽、壽都あり。物産は銀、銅、砂糖、鯨、昆布等なり。

一三五 北海道に於る函館に次ぐ要港と其所在を問ふ

後志の小樽港にして、後志國の北海岸小樽灣内に在り、人口七萬九千、此港の函館に於ける横濱の東京に於けるが如き關係にて、近時非常に繁盛に赴けり。

一三六 石狩の地勢、都會、物産を擧げよ

石狩は本島中央部の西に逼せる大國にして西は石狩海(日本海)に面し、他の三面は渡島根室を除くの外本島中の各國と境す。而して是等の國境は何れも高峻なる山脈を以て限られ、内地も國の東南部即本島の中央部に當る所山岳の起伏頗る多し。石狩川は是等諸山の水を集めて東南に流れ、其流域は國の西部に於て一大平野を爲す、所謂石狩平野是なり。都會に札幌あり、産物は鱒、鮭、鯨、鯨、昆布等の海産物を主とす。

一三七 札幌の所在及狀況を問ふ

札幌は石狩國の西南部に在りて後志との境に近し、本道第三の都會にして人口五萬餘。道廳、農學校、炭礦鐵道會社其他の諸會社あり、後來益繁華に向ふべき有望の地なり。

一三八 石狩川の流域を問ふ

【答】本道第一の大河にして又本邦第一の長流たる石狩川は本島の中央石狩十勝の境なる石狩岳十勝岳の間より發し、北に流れて兩大瀑布となり。それより深谷の間を廻りて西の方平野の中央に出で、茲にて數多の川流を集め下流漸次水勢大に、雨龍川、空知川を加へて更に大となり。廣漠なる石狩平野の間を南西に流れ石狩港より日本海に入る、流程百十餘里河口は幅四百間鮭獵盛なり。

一三九 天鹽の地勢、都會、産物を問ふ

【答】本島の北西に位し西方一帯天鹽海(日本海)に面し、東北は北見、南は石狩に接し、兩國との境は總て山脈を以て限らる。海岸線の屈曲は極めて少し、内地の河流は多くは西北に向ふ、其最大なるは天鹽川なり、地勢は天鹽川の流域及西部沿海の地平坦なり。都會には天鹽、増毛あり、産物は鮭を主とし、其他の海産物少からず。

一四〇 北見の地勢、都會、産物を問ふ

【答】此國は本島は東北面にして地形狹長北より東南に延き、東北一帯オコック海に瀕し、北端は宗谷崎、東端は知床岬にして兩岸遙に相對して一大灣を形成す。南部及東方の一部は天鹽、石狩、釧路、根室に接し、其國境は一帯の山脈を以て限らる。河流は長

大ならず皆北に向へり。地勢沿海は一般に平衍にして、海岸線は屈曲少く唯中部に周圍四十五里の猿間湖あり。都會は、宗谷、枝幸、紋別、常呂、此中枝幸は砂金の採掘を以て著名なり。産物は鮭、鱒等を最とす。

一四一 膽振の地勢、都會、産物を問ふ

【答】膽振の位置は本島の西南部渡島半島の根部より東に延き、北は後志、石狩、東は日高に接し南方一帯海に瀕し、中央に室蘭岬斗出し、其中に噴火灣(又火山灣)を包む。地勢は東北部の國境山岳連り、内地も丘陵の起伏少からねど、東北部稍平原あり、河流は概して南流すれど千歳川のみ北流して石狩に入る。都會は室蘭千歳にして前者は軍港を以て名あり、産物は海産を主とす。

一四二 日高の地勢を記せよ

【答】日高は本島南部に位し東北は十勝、西は膽振に接し、南方一帯は日高灣(太平洋)に臨む、國境は悉く峻險の山脈連亘し地勢海岸に向うて漸次低下し沿海平地少からず、海岸線は極めて屈曲に乏しく港灣なし、南端の岬角を襟裳崎とす、此國の住民は主に「アイヌ」人なり、産物は海産を主とす。

一四三 十勝の地勢、都會、物産を問ふ

答 日高の東北に位し東北西は釧路、石狩、膽振に接し東南一帯は十勝海(太平洋)に面す。國境は皆山脈を以て限られ、殊に西北は最險峻なり。海岸の屈曲なきこと日高に同じ、内地は大津川の流域平野を爲す。都會は十勝、大津あり、産物は海産を主とし、牧畜業盛に行はる。

一四四 釧路の地勢と都會を問ふ

答 本島の東部に位し東西南三面は山脈を以て根室、北見、石狩、十勝の境を劃し、内地も山岳の起伏あれど、南方釧路川流域の地平野を爲す。南面一帯の海岸は稍屈曲に富み、厚岸、濱中等の良港を形成す、國の東北境に二湖あり、東を釧路湖、西を阿寒湖といふ、都會は釧路、厚岸、濱中、榑町、等あり。

一四五 根室の地勢、都會を記せよ

答 此國は本島の東北端に位せる小國にして北西南三方は山脈を以て北見、釧路と境し、東方は一帯海に面し、其北部は根室海峡を隔て、千島の國後島と相對せり。内地は中

部標津川の流域の地平野を爲す。海岸は南方屈曲多く、納紗布岬南端より東に斗出し、根室の灣を抱く、都會には根室あり。

一四六 北海道東北部の要港及其所在を問ふ

答 根室國の根室港にして國の南部根室灣口に在りて辨天島其前に横はり、千島諸島に渡る要津にして市街の繁華本島本部に冠たり。

一四七 千島列島の所在及形勢を問ふ

答 根室の東北に當りて根室海峡を距てたる國後島を起點とし、東北に向て三百餘里の間を隔てせる大小三十二列島より成立し、其東端は占守島にしてクリル海峡を隔て、魯領堪察加に對す。諸島の總面積六百十三方里略四國と同じ、近海は霧深く凜め風波荒く且諸島の海岸多くは斷崖にして港に乏し。

一四八 千島列島中の主なる島名七八を擧げよ

答 主なるものを南より順次に列擧すれば國後、擇捉、得撫、新知、捨子古丹、恩福古丹、幌筵、占守、是なり。(以上各島の周圍は二十二里以上百五十三里)島形は孰れも

狭長にして西南より東北に延ぶ。

一四九 國後島の所在地勢を問ふ

答 千島列島の西南端に位し、根室を距る九里、周圍七十一里、内外は土質概して礫确耕作に適せず、西南端に泊灣あり住民は内地人及「アイヌ」土人にして民業は主に漁獵なり。

一五〇 色丹島の位置形勢を問ふ

答 國後島の東南に當り根室港を距る約六十里の海上に在り、千島列島の一にして、面積は小なれども良港多く、土地肥沃にして將來有望の殖民地たり。

一五一 千島列島中最大のもの及其所在を問ふ

答 擇捉島にして列島の西南端より第三に位し、タンネモイ海峡を隔て、國後島に對す。長さ約六十里、周圍百五十三里、北部は海岸屈曲に富み、二個の大灣を爲す、南端に良港あり、内地は礫确耕作に適せず。

一五二 得撫島の位置形勢を問ふ

答 列島西南より第四に位し、周圍六十里強、西南はエトロフ海峡を隔て、擇捉島と相對す、此島は地味豊饒にして樹木あり、海獺、海馬、鱈等を産す。

一五三 千島列島中部の島を問ふ

答 新知島にして長さ二十七里、廣さ五里、周圍三十三里餘、東北にプロウトン港あり、島の西南の海峡の名をホツスールと云ひ、此海峡に依りて千島は兩部に區分せらる。

一五四 千島列島東北端の三大島を記せよ

答 南より順次に擧ぐれば恩禰古丹、幌筵、占守の三島にして、周圍は恩禰古丹二十六里餘、幌筵は八十里、占守は二十三里弱。

一五五 占守島の形勢を問ふ

答 東北は久留米海峡を隔て、勘察加のロバトカ岬と相對し、南方は小千島海峡を隔て、擇捉島に對す。地勢は殘餘の列島に比して土地平夷なり。島内の住民は純粹の千島にして、風土習慣アイノに類し皆穴居せり。

一五六 本邦領土最北の地を問ふ

千島列島中のアライト島にして、幌延島より西北に當れり。四邊斷崖にして島内は樹木稀に殆んど人類の棲息し難き所なりと云ふ。

一五七 北海道五大河の稱ある河流を擧げよ

石狩の石狩川、天鹽の天鹽川、十勝の大津川、釧路の久壽里川(又釧路川とも)後志の後志川是なり。

一五八 北海道の交通を問ふ

道路は概ね海岸を繞つて各地方に通ず。青森より津輕海峡を渡りて函館に到り函館より森港を経噴火灣を渡りて室蘭に至り、終に北進して札幌に通ずるものを札幌街道と稱し。又歌別、襟裳岬、猿留、大津等を経て根室に至る根室街道あり。鐵道は小樽港の北手官を起點とし札幌を過ぎて永山に入り又室蘭港に起るものは東海岸に沿うて苫小牧、千歳を過ぎ岩見澤にて札幌線に通ず、此他二三の鐵道線あり、海路は函館を中心とし、南は本土諸港に到り東方室蘭、厚岸、根室に至り、千島線に連り、西は福山、江差、小樽に至るの間常に定期航海あり。

十、臺 灣

一五九 臺灣島の沿革を問ふ

臺灣は支那海上の一大島にして、我國人の曾て高砂と呼びし所なり。而して洋人はフオルモサと呼べり。初めて臺灣と名けしは我紀元二千三百四十二年(支那の康熙二十二年)本島の清朝に屬せし時に在り。上古は只未開人種の此地に棲みしとの事の外遺として知るべからず。初めて支那に知られしは明の宣德帝の時大鹽王三保東印度に航せんとし風波の爲めに茲に碇泊せし時なり。我國よりは足利氏の末浮浪の徒が黨を組んで此地に赴き之を根據地として支那を剽掠したることあり。十六世紀の頃和蘭人、此地を占領し又西班牙人來り互ひに相抗争せしも終に蘭人勝を占め此地を統治せしが三十八年にして支那人の爲めに權力を奪はれたり。清朝の始め明の遺臣鄭成功臺灣を、根據地として明朝を恢復せんと圖り先づ蘭人を瓜哇に追ひ本島に君臨せしが幾程もなく死し其子經文遺志を繼ぎしも事敗れて本島終に清の版圖に歸す。爾後二百餘年を経れども東岸及山中の蕃族は毫も清朝の覇權を受けず、漂流せる外人を殺すに至る。明治七年我國問罪の師を發せしとあり、同二十七年支那と戦端を開くや、我軍本島を占領し、翌年四月十七日馬關條約に本島及諸屬島は我版圖に歸し、爾來我國總督府を臺地に置きて改革に従事しつゝあり。

一六〇 臺灣の地味を問ふ

答 一概すれば先づ膏腴にして耕作に適す、就中西部の地方は諸川流の灌漑其肥沃を補ひ、又氣候の炎暑は降雨のために調和を得耕作の利少からず。

一六一 臺灣の人種を問ふ

答 本島の住民は近來移住せし内地人を除きて、土人及支那人の二種に大別す、支那人は福建、廣東兩省の移住民なり此中にも頑固にして文化を知らざるものあり土人は馬來人種にして又之を生蕃熟蕃の二部に別つ。生蕃は東部深山幽谷の間に住み其數凡二千萬性質暴戾にして殺戮を好み、首級を得るを名譽とし。殊に支那人を憎む。平常狩獵を業とす、熟蕃は高原及び平野に住し、支那人に接して大に其文化を採り風俗習慣支那化せられて性質温良最も耕作に努め却つて支那人に優る所ある程なり。

一六二 臺灣の風俗を問ふ

答 其風俗は人種に依りて異あり。支那人は大抵其本國に於けるものと異なるなし。蕃族も其習慣大同小異なれど生蕃の殘忍暴戾に比して熟蕃に大に異れり。蕃族は概ね一

幅の布を身に纏ひ、文身を爲す習癖あり、食物は米菓物野菜等にして家屋は市街に在りては煉瓦石を用ひ屋根は瓦葺にし、村落は竹造茅屋多し、生蕃の或種に至りては殆んど家屋と稱すべきものなき者あり。

一六三 臺北の動植物を記せ

答 動物は概して南東亞細亞諸島のものと同種なり、野獸は鹿を主とし、豹、猿、熊、兎、臭猫等あり。家畜には水牛、騾馬、豚、犬を主なるものとし、鳥は鶯、鷹、鶴、雉、ツグミ等多く、食用には雞鴨の類専ら用ひらる。水産には牡蠣、鮑殊に多し。植物は北部に中央亞細亞、及日本地方と同種のものをも有し、南部には熱帯のものを見る。菜、砂糖、米は農産の主なるものとし、殊に茶は年七回其葉を摘むと云ふ、米も二回の收穫あり、樹林には檳榔子、蜜、棕櫚、桫欏、楓は全島に遍く、其他柳、榿、赤楊、松、桃、桑、椰子、麒麟血樹、樟樹、波蘿密、梅、石榴、楠、榕樹、烏木等あり。竹には刺竹、長枝竹、鳳尾竹等其他數種あり。花卉類は内地のもの悉く備はれり、要するに本島は熱帯植物温帯植物を加へ、四時綠色絶ゆることなく草木到所に密生せり。

一六四 臺灣の礦物を問ふ

〔答〕 本島鑛産地の主部は今日猶生蕃の境に屬し未だ探險を經ざれども、已知の山脈中殆んど一として石炭脈を有せざるはなく、北部基隆、蘇澳、新竹、苗栗、及南部恒春の近傍に最多く、基隆近傍の炭坑より採掘するものは質佳良ならざるも量極めて多く價低廉なり。又全島火山多きにより硫黃の産出夥し。

一六五 臺灣北部の地勢及都會を問ふ

〔答〕 北部地方は概して山岳の起伏多し。されど其内部を流る、淡水河ありて、數多の支流を南北に出し、其流域稍廣潤の平原を爲す。都會は臺北府、艋舺、大稻埕、淡水港、基隆港、室蘭、蘇澳、新竹、大姑陷とす。

一六六 臺北府の位置及狀況を問ふ

〔答〕 臺北府は山を以て圍まれ、淡水河の流水に沿ひ西京と稍似たる所あり、南方沃野開け大屯、觀音の諸山を北西に望む、臺灣最大の都府にして人口二十萬餘臺灣總督府の在る所にして内地人多く住し、臺灣鐵道は此地を根基として東西に走り、市街繁盛を極む府城は劉銘傳の築く所に係り市街は支那風なり。

一六七 臺灣第一の良港と其所在を問ふ

〔答〕 基隆港にして、臺北府の東北凡九里淡水港より海路十二里の處に在りて北は海に面し自餘三面は山嶽回繞す、港内廣からざるも水深く大艦を入るゝに足る、石炭は主として此港より輸出す人口一萬許。

一六八 臺灣北部の交通を問ふ

〔答〕 北部は重要な地なるを以て、山嶽の多きにも拘はらず交通の便甚だ開けたり。鐵道（劉銘傳の起す所に係る）は臺北より西南は新竹を經て香山港に通じ北東は基隆に達す。又稻埕より淡水港間は小蒸氣往來す、其他人力車、水牛車等ありて往來を便し、郵便電信も他方よりは大に開けたり。

一六九 臺灣西部の地勢及都會を問ふ

〔答〕 大甲溪以南臺南に至る一帯の地にして、東はモリソン山脈に依つて生蕃の境に接し雲林より浦里方地は山岳相接し、彰化嘉義一帯の地は平原沃野にして田圃開けたり。都會は臺灣西部第一の繁華の地なる彰化を始め嘉義、鹿港、築築あり。

一七〇 臺灣西部の交通を問ふ

山地は全く道路なるものなけれど海岸は稍通せり。此地は大河なく、河には橋梁を架せざれども平時は常に乾涸せるを以て河道を徒歩するを得べきも、雨季に際しては交通全く絶ゆ、沿岸は遠淺にして大船往來する能はず。

一七一 臺灣南部の地勢及都會を問ふ

臺南以南分岬の間を云ひ、東北山嶽多く、淡水河の流域は稍沃野なれど、臺南分岬に至るの間は海濱に丘陵多し、都會は臺南、安平、打狗、鳳山等あり。

一七二 臺灣南部第一の都會と其狀況を記せよ

臺南府にして曾て鄭氏の茲に都を定めしより永く中央政府の所在地として臺灣全島第一の都會なりしも、我總督府の臺北に置かるゝに及んで第二位に下れり。長方形の市街にして周圍二里許人口十五萬餘、南部商業の中心たり。

一七三 臺灣南部の交通を問ふ

此地方は全島中最早く開けたる所なるを以て、道路も他部よりは比較的發達せり。臺灣鐵道は香山より臺南に布設中なり。

一七四 臺灣東部の地勢を問ふ

此地方は今日猶生蕃の棲居する所なるを以て地理明らかならず。されど山嶽重疊して、内に大河なく又良港、都會、道路等なきとのみは既に知られたり。

一七五 基隆港より長崎上海等への里程を問ふ

長崎へ 六百三十哩 琉球八重山群島へ 百二十餘哩
上海へ 三百七十六哩 福州へ 百五十哩

一七六 安平港より長崎、上海、香港への里程を問ふ

△長崎へ八百七十哩 △香港へ三百哩 △上海へ六百五十哩。

一七七 澎湖諸島の位置形勢を記せよ

臺灣本島と支那大陸との間に在り。五十五の島嶼より成り、ベスカドールス諸島とも云ひ、清國廈門を距る五十里許、本島との間を澎湖水道と稱す。澎湖、漁翁、白沙の大島相並び内に澎湖港を抱く、北にあるは大烈島、南には船蓬島、(倉島、八罩島、

矮船島等あり、諸島中最大なるは澎湖本島にして地質は珊瑚岩石より成り、周圍二十餘里、海岸屈曲に富み、島内に深入せる馬公灣あり。都會は宮城、澎湖あり。此諸島は本邦、支那、朝鮮に達する咽喉の地なり。住民は支那人にして六萬許あり。

一七八 澎湖諸島の首府と良港とを問ふ

答 首府は宮城にして澎湖本島馬公灣の北口に在り。人家七八百砲堡の設けあり。澎湖港は澎湖漁翁兩島に抱かれ、水深く巨船を容る、臺灣海峽樞要の位置に在るを以て殊に必要なり。

一七九 紅頭嶼の所在及形勢を問ふ

答 臺灣本島兩岬を東に距る二十里許に在りて周圍十里弱、生蕃に似たる土人あれど稍温良なり。漁獵牧畜を業とし、椰子樹は多く繁茂す。人口一千許。

一八〇 火燒島龜嶼の所在と地勢を問ふ

答 火燒島は紅頭嶼の北十七里に在り、周圍三里石炭岩より成る。米穀蔬菜を産す島民は支那人と馬來人の雜種なり、龜嶼は洋人ステイブ島と呼び、三角紹の南五里に在

り、島民は支那人にして田野を作る。

十一 樺太

一八一 樺太島の沿革を問ふ

答 上古の歴史は之を知るに由なきも、最も早く脚を此島に投じたるは我日本人なりき。舊時世界各國の地理書は、此の島を以て大陸の一部と爲し、韃靼に接續する半島と記せり。文化六年我國の奇傑間宮林藏始めて全島を巡廻し、終に韃靼海峽を渡りて大陸に入り、本島の大陸と全然隔離せる事を證明したり。これより先き露西亞は東方亞細亞侵略を企て、一千七百十一年を以て殆ど東方の半島を領有するに至りしが、未だ樺太に指を染めず。然るに文化年間に至り、稍々此の方面に侵畧的行動を示すに至りしかば、幕府は會津藩の兵千五百人を蝦夷地防禦の爲めに送り、又間宮林藏をして探檢せしむるの必要を見るに至れるなり。後明治に至るまで我國と露國との間に或は樺太境界問題となり、或は幕府全權の露都派遣となり、紛擾に紛擾を重ねたりしが、明治維新に至り、政府は阿波の人岡本監輔を擧げて權判事と爲し、樺太島の守備たらしめ、次いで明治五年の頃に至り、樺太千島の交換問題となり、遂に同八年五月七日を以て、我が榎本公使と露國外務大臣ゴルチャコフの間に、樺太千島交換條約は締結せられ、

同月二十二日東京に於て交換を了し、爾來同島は専ら露國の經營する所となりしも、明治卅七年日露開戦の事ありしより、同卅八年七月七日、帝國陸軍はコルサコフ市街を占領し、更に同八月米國ポーツマウスに於ける兩國講和問題の結果により、北緯五十度以南は再び我が帝國の領地となれり。

一八二 樺太の位置並びに形勢を問ふ

答 我帝國の北端、北海道の東北に隣りし宗谷海峡を隔て、南北に長く、露領沿海州と相並んで、オコック海と日本海との間に横はる一大島にして、一にサガレン島と稱す。北緯四十五度五十七分に起り、五十四度二十四分に終り、東經百四十一度三十分より百四十四度五十分及び、南北の延長六百七十餘哩、東西の幅二十哩より百五十哩に亘り全面積は二萬四千五百六十平方哩、恰も我が九州と四國とを合せたるよりも尙大なり地は韃州海峡を隔つる朔北シベリヤの荒原より吹き來る寒風と、東北方オコック海を流る、北極寒潮との間に介り、氣候甚だ寒く、一年の平均温度は僅かに華氏の三十七度を超へず、隨つて人口甚だ稀に、全島を通じて四萬人に過ぎず、山には開闢以來人跡を印せざる森林あり、野には沼澤を涉りて白晝熊羆の横行するあり、其の大部分、殊に北部の大部分は尙は未開野蠻の部落たるを免れず。

一八三 樺太の人種を問

答 樺太の住民は概ね三種に區分し得べし、即ち土人、露國人、及び日本其他の國人にして、土人にはギリヤツク、アイヌ、オロチョン、トンゲイス、ヤクトの別あり。アレキサントロフスキー洲にはギリヤーク人多く、ツイモフスキー洲にはギリヤーク人とオロチョン人と相半ばし、コルサコフスキー洲にはオロチョン人多く住せり。而してヤクトと稱するものはまたアイヌの一種族にして、今千九百年の調査に據れば、本島には一千七百四十三人のアイヌ及び十四人のヤクトを有し居れども、今は稍其數を減じたるものゝ如し。

一八四 樺太在住の露國人はいかなる状態にありや且つ在留日本人の數を記せ

答 由來樺太住民の大部分を占め居るは、云ふ迄も無く露西亞人なるが、而も其の十中の八九は無賴漢にして、放火強盜殺人の結果此の島に流謫せられ、刑期満ちて農業漁業等に從事し居るものなれば、其の亂暴狼籍は云ふまでもなく、一般の邑民よりは蛇蝎視され居れり。明治三十五年度の統計に據るに、在留本邦人は男女合計四百八十五

人、其南部が再び我領となりし以來疾に増加したるは事實なり。

一八五 明治三十七八年役後我領となりて改名せられたる
其主なる港灣の舊新兩名及び其由來の大略を記せ

答 舊アニワ灣を東伏見灣に、舊ロソセイ灣を千歳灣に、舊ヘーシエンス灣を七郎灣に、舊エンツマ岩を對馬崎に、ノトロ岬を近藤岬に、舊シントク岬を近藤岬に、舊ヘーシエンス岬を重藏岬に、舊ロベン島を、海釣島に改名したる等其の主なるものなるが、此中東伏見灣はアニワ灣に敵艦ノークックを撃沈し給ひし、東伏見宮殿下の御武勇を千歳に傳ふる紀念の爲め、七郎灣は北遣艦隊司令長官片岡七郎の名に因ケ、近藤岬及び重藏岬は往年の志士近藤重藏の功績を不朽に傳へんとするもの、對馬崎は明治三十七年八月十日の海戦後、此の岬附近に於て偉功ありし、帝國軍艦對馬の榮名を冠せしものなり。

一八六 樺太の行政上區劃併びに我領となりし郡の名を記せ

答 樺太は由來行政上コルサコフスキー、トウイモスキー、アレキサンダロフスキーの三

郡に區劃せられ、露國東部西伯利總督の管下に屬せしが、今ヤトウイモスキーの南部及びアレキサンダロフスキー郡の全部とは全く我領有となれり。

一八七 樺太の動植物を記せ

答 動物には家畜の種類に馬、牛、豚、綿羊、犬、鶏等ありて家畜外の動物には雁、鴨、鷺、鵞、黒貂、馴鹿、栗鼠等あり、殊に各種の狐、鬼、熊、水獺等極めて多し。海獸にはまた鰻鮟鱇、海獅、海豹、鯨等あり。植物は南部の樹林に潤葉樹、銀葉樹、樺樹の潤葉樹を産し、北部は概して劣等なる植物なり。其中著名なるは白樺、ナ、カマド、接骨木、常葉楓の一種、深山櫻、ケヤマハシノキ、白楊、千島子、ズミサン、イチエの一種ヒロハノツリハナ、山猫柳、安方柳、コブノキ、葵唄、薔薇、蝦夷躑躅、覆盆子等にして、雜草には獨活、蔞、ナ、ツバ、蘇、黃精、下津花、カニカハナ、白花苜蓿、大黃萬年杉等の類多し。

一八八 樺太の農業を問ふ

答 地味は膏腴にして播種に適すれども、奈何せん氣候寒冷にして、凍氷の期長きが爲め、耕作は極めて困難なるが如し。農民また一般に懶惰にして、現在の耕作地僅かに

約五千八百デシヤチン（一デシヤチンは凡我一町一反餘）に過ぎず、其の産額も従つて尠なく、稍其重なるものに粟麥、馬鈴薯、大麥、小麥、燕麥の穀物あり、之に次ぐものを玉菜、甜菜、胡瓜、長蕪等とす。

一八九 樺太の商業を問ふ

答 商業地として見るべきはコルサコフとアレキサンドロフスキーの二府なるが、兩府とも官設商店あり。本邦の商品は米、酒、味噌、醤油、砂糖、其他雜貨にして、一年の賣上高コルサコフ府に於て約八萬圓に上ると稱せらる、此他將來有望の商業地と目せらるゝは、島の西海岸に於てマウカ、クシユニナイ、ナヤス、ニウオ、ヌムラオ、東海岸に於てナイフツ、ワール、ナヨロ、シ、カ、ローモ等なり。

一九〇 樺太の林業如何

答 樺太の森林は全島の三分の二を覆ひ、其廣袤は四百デシヤチンに達し、林樹には、落葉松、楡、白楊、白樺、黃樺、水楊、楓等あり。而して是等多くの樹木は主として本島の南部（我新領地）及び中央部に在りて、其伐木運搬の便最も好く、本島の財源として殊に望みを屬すべきもの、一なり。

一九一 樺太の漁業を問ふ

答 本島沿岸一帯の海は甚だ水産物に富み、同島陸上より生ずる産物よりは遙かに多くの價値を有す。本邦人の由來之れに従事するもの漁業主三十餘名、雇用漁夫約四千、水産物の主なるものには、鯨、鮭、鱒、鰹等にして其の鯨の如きは既に明治二十五年度に於て、日露兩國人の捕獲高合計實に十八萬八千餘石の巨額に上れり、此他鯉、鱒、小鯉等の魚族も此近海に多く生息す。海草は昆布、荒布、海賦には鯨、鰐、鰻、鰮、川鰻、海鮨、海馬、海豹等また特産たり。

一九二 樺太の鑛物中重なるものを記せ

答 本島の鑛物中先づ第一に擧ぐべきは石炭にして、其の鑛脈は北部の海岸に多く、而も炭層は沿海の土境に突出し居るが爲め、採掘者の運輸に便あり。炭坑はドウエ附近、ムカゲ、アレキサンドルスキー、ウラジミルの都會四ヶ所にして、明治三十四年度に於てドウエ港より輸出せられたるもの、みにても二百九十一萬餘の巨額に達せり。石炭の他にセメーノフ商會の漁場附近に湧出する石油もまた好望にして、砂金はスシヤ、リウタカ、サイブナ、ボロナイ、ウイム等の諸川に産出す。

一九三 コルサコフ港とアレキサントルフスキー港の位置

状態を問ふ

答 本島の商業地コルサコフ府は東伏見灣に臨み、本島第一の良港にして、今は全く我領に歸せり。戸數三百、人口二千と稱し。沿岸は淺淺にして船泊の碇泊に不便なるも、地勢は背面に高所を有し、中央に小丘あり、將來の發達期して待つべく。アレキサントロフスキー府は本島の西海岸にあり。明治三十七八年の役一反之を占領せしが、講和條約によりて露國に返附す。戸數一千三百餘、人口一萬五千、本島第一の都會にして、露西亞本廳、寺院、禮拜堂、博物館、圖書館、孤兒院、郵便電信局、學校等の設けあれども、未だ日本人の商店を見ず。

一九四 北緯五十度以南に於ける港を記せ

答 コルサコフ港を中心として、以北の東海岸にはガルキノウラースコエ、ラーツスコエ、ベレゴウオエ、ホロナイ、セリエトラ、ナヨロ、ボロナイ等あり。西海岸にはモステルシナイ、マウカ、クシエンナイ、ウツロス、セリトナイ等あり。要するに北緯五十度以南とはコルサコフスキー郡リセトナイ以北の地點より、一線を東海岸に劃せる以南の一帶を云ふ。我新領地即ち之れなり。

参 考

明治三十八年度諸官私立學校入學試験
地理問題集

諸官私立學校入學試験に於ける地理問題は必らずしも日本と萬國とを區別せざるが故に、時としては一問題にして双方に跨れるものあり、又専ら外國の地理に關するものにも大に參考となるべきを以て、茲には國の内外を別たす、況べて地理科の問題に屬するものは悉く之を網羅し、其中日本地理及び双方に通じたる自然地理、即ち地文に屬すべきもの乃至人文地誌に屬すべきは注意の爲め、題の頭に▲印を付するとせり

○商船學校豫備試験

- 一、北海道及び千島の位置と地勢を問ふ
- 二、獨乙、和蘭、及び白耳義の港名及び其位置を記せ

○海軍機關學校

一、左の諸地の位置を問ふ

- 伏見 高山 宮古 高岡 小樽
- 中津 嚴原 岩國 洲本 米子

二、山陰山陽兩道を地理學上より觀察して其の差違の點を述べよ。

三、亞細亞に於ける英國の領地三ヶ所を挙げよ。

四、歐羅巴大陸に於ける大なる河の中四個の名稱を挙げ、且つ谷河の流入する海洋を記せ

五、左の諸地の所在を問ふ。

- | | |
|---------------|-------------------|
| ベルン (Berne) | リバプール (Liverpool) |
| ボストン (Boston) | ブタベスト (Budapest) |
| シドニー (Sydney) | ホノル、 (Honolulu) |
| リヨン (Lyon) | バンコク (Bangkok) |

○水産講習所

一、陸前金華山より陸奥國尻矢崎間に於て得たる漁獲物を賣捌かんとす、此の間に於て最も適當なる港二三を挙げよ。

▲二、海外輸出水産物の重要なるもの五種を挙げ、其主なる需用地を説明せよ。

三、横濱を起點とし、滿洲を通過する事なく、水陸兩路を利用して最も迅速に世界を一週せんとす、其の通路は如何。

四、左に記載せる場所の所在を詳記せよ。

- | | |
|--------------|-------------|
| 一、シバロフスク | 五、コルサコフ |
| 二、ペートル大帝灣 | 六、コンマンダースキー |
| 三、フレザル河 | 七、木曜島 |
| 四、ニユファウンドランド | |

▲五、暴風の起るは何に原因するや、又其の北半球に於て起る現象に就き説明せよ。

○高等師範學校豫科

一、本邦主要の活火山を例とし、火山活動の状態を述べよ。

▲二、本邦の造船業に就いて記せ。

三、本邦と國交を結べる諸國中アメリカ大陸にあるものを列舉し、其の政體と國語及び首府の名とを記せ。

四、左の地につきて知る所を記せ。

メナム川 (Menam)	ロテルダム (Rotterdam)	杭州
竹 敷	テキサス (Texas)	

○外國語學校

一、南亞米利加西岸の主要なる貿易港を列記せよ

二、ライン (Rhine) 河の流域を問ふ

三、ボンベイ (Bombay) の輸出品を舉げよ

四、地中海の主要なる島を列舉し其の所屬國別を示せ

五、左記 諸市の所在を詳説せよ

フェズ (Fez)
 カンダハル (Kandahar)
 バタビヤ (Batavia)
 ケープタウン (Cape Town)

ハ、ナ (Ho Na)

○陸軍士官候補生

一、我國に於て縣廳名と所在地との名稱の異なる縣廳名を舉げ且つ管轄國名の大畧を記せよ

二、朝鮮の五大河及び京釜鐵道及び下の各地を記入せよ
馬山浦、木浦、元山津、仁川、義州、鎮南浦、蔚山(地圖附與)

▲三、山嶽成立の要素を記せよ

○専門學校

▲一、經緯度は如何にして測定するや

▲二、太陽の高度により受熱に差異を生ずる理を説明せよ

▲三、吾國綿糸紡績の原料は主に如何なる國より輸入し、其の製品は如何なる國に輸出せらるるや

四、亞非利加に於ける英佛兩國の勢力につきて述べよ

五、左の地に就きて知れる事を述べよ

南島島 新冠 ハルパライス(Valparaiso) バタビヤ(Batavias)
ハル(Hall) 蘇州

○山口高等商業學校

- ▲一、冬季に於て東京地方は晴天多く北陸山陰地方は降雪多く、山口地方は雨雪交々來るを常とす、其の理由を問ふ
- 二、吾邦に於ける石炭、石油、銅、鐵、硫黃、アンチモニーの主なる産地(國名)各一を擧げよ
- 三、左の名稱に就きて知れる所を記せ
鎮南浦、西安、ラングーン(Rangoon)セントルイス(St. Louis)
オリノコ(Orinoko)

○長崎高等商業學校

- 一、下記の地名中其二を選び、それに就き知る處を記せ
(イ)江寧府 (ロ)芝罘 (ハ)Rio de Janeiro (ニ)Jovas
- 二、朝鮮の略圖を畫き、之れに主要なる山脈河流及び都港を記入すべし

○第一高等學校大學豫科

- ▲三、我邦の海流につきて記し、併せて之が氣候及び産物に及ぼす影響を説け
- ▲一、島嶼の成因を説明せよ
- 二、本邦に於ける陸軍師團司令部の所在地を問ふ
- 三、支那本部沿海岸の略圖を描き、開港場五を記入せよ
- 四、左の地名に就き知る所を記せ
(イ)拉薩 (ロ)アルセルス(Antvors Antvoirpen)
(ハ)ポートサイド(Port Said) (ニ)ボストン(Boston)
(ホ)メルボルン(Melborne) (ク)ウラル山脈(Ural)
(ト)アマゾン河(Amazon)

○海軍兵學校

- ▲一、地球の公轉及び自轉とは如何
- ▲二、貿易風を説明せよ
- 三、左の三問に答へよ

增改
補訂
新選
日本地理問答終

- (イ) 本邦の大河十以上を挙げよ
- (ロ) 本邦の骨子をなせる山脈を記せ
- (ハ) 本邦に於ける人口十萬以上を有する都會五以上を順次に記せ
- 四、次の件々を別圖に記入すべし(白地圖附與)
- (イ) 珊瑚帶 (ロ) 圖中文字の記入しある大洋、海灣、海峽、地峽、
群島及び島の名

明治三十五年一月廿六日第一版印刷發行
 明治三十九年一月廿六日增訂十一版印刷
 明治三十九年一月廿六日增訂十一版發行

改正日本地理問答



定價金十二錢

著者 上村貞子

增訂者 武田櫻桃四郎

發行者 東京日本橋區本町三丁目八番地
 大橋新太郎

印刷者 東京日本橋區宗十郎町(國文社)
 松本 魁

發兌元

東京日本橋區本町

博文館

每編專門
大家執筆

受驗問答叢書

洋裝袖珍金字入美本
每編約二百四十頁
全文六號字

各一冊 定價金貳拾錢〇〇〇郵税金四錢

世の學生諸子の各種學校入學試験に應せんとするに際し科目の夥多なる一々普通の編纂書に依て研究せんは到底其煩に堪えず蓋し暗記と悟通とは問答書に依るを最捷徑とすこれを以て本館發售に各專門家先輩諸士に請ひ本書發行を企て中學師範校等の應試者に推薦したり然るに幸ひにも編纂の當を得たる答案の懇切にして適切なる何れも江湖の好評を博し各卷共數版を累ねざるなく早くも豫定の卷數を完ふせり偶々篤學者は本書の趣旨を擴張して文官試験判檢事辯護士試驗應試者の爲めにこれに必要なる科目をも刊行すべしと希望せらるる弊館亦こゝに念あり是等諸士の希望に應じ憲法、行政法、商法、民法、刑法、民刑事訴訟法、國際法等を發刊せんとす著者は何れも當代專門の名流學士にして假設無數の新題に付するに簡明適切なる答案を以てし一目の下釋然領解を得せしむるに餘蘊なし是れ本書の眞價なりと謂ふべし

(既刊目次)

- 第壹編 ● 改訂日本地理問答 (十版) 上村貞子君編
- 增補日本地理問答 (十版) 武田櫻桃君增訂
- 第貳編 ● 撰日本歴史問答 (九版) 宮田修君編

- 第參編 ● 撰新世界地理問答 (八版) 武田櫻桃君編
- 撰新東洋歴史問答 (五版) 松原岩五郎君編
- 撰新西洋歴史問答 (六版) 長谷川誠也君編
- 撰新國文問答 (四版) 鷹野勇雄君編
- 撰新漢文問答 (七版) 太田才次郎君編
- 撰新算術問答 (六版) 竹貫登代多君編
- 撰新代數問答 (四版) 竹貫登代多君編
- 撰新幾何問答 (再版) 竹貫登代多君編
- 撰新化學問答 (四版) 武田櫻桃君編
- 撰新物理學問答 (四版) 寺崎留吉君編
- 撰新動物學問答 (三版) 寺崎留吉君編

第拾四編 ● 新撰 地文天文問答 木村定次郎君編
 第拾五編 ● 新撰 法制經濟問答 (再版) 中村重造君編
 第拾六編 ● 新撰 文官普通及裁判所書記試驗問答 (再版) 小野拓君編
 第拾七編 ● 新撰 倫理教育問答 永廻藤一郎君編
 第拾八編 ● 新撰 礦物地質問答 (再版) 寺崎留吉君編
 第拾九編 ● 新撰 心理論理問答 德谷豐之助君編
 第貳拾編 ● 新撰 和英文典問答 上村貞子君編
 第廿壹編 ● 新撰 農業要項問答 志岐守二君編
 第廿貳編 ● 新撰 英語會話問答 森美文君編
 第廿參編 ● 明治三十八年 文官試驗答案集 相澤新八君編
 第廿四編 ● 新撰 商業要項問答 濱田四郎君編

第廿五編 ● 新撰 獨逸文典問答 藤井憲君編
 第廿六編 ● 新撰 工業要項問答 (上下) 加野友次郎君編
 第廿八編 ● 新撰 作文問答 西村眞次君編
 第廿九編 ● 新撰 衛生生理問答 首藤環君編
 第三十編 ● 新撰 家事問答 近藤正一君編
 第卅一編 ● 新撰 憲法行政法問答 辻宏吉君編
 第卅二編 ● 新撰 商法問答 太田資時君著
 第卅三編 ● 新撰 國際私法問答 土屋彦太郎君著
 第卅四編 ● 新撰 刑法問答 石原磊三君著
 第卅五編 ● 新撰 民法訴訟法問答 清水孝藏君著
 續刊 ○ 新撰 民法問答 宮川大壽君編

理學士
佐藤傳藏君著

第十四版

日本新地理

大判洋裝並綴
正價金四拾錢
郵稅八錢

▲特製洋布上綴正價五拾五錢：郵稅拾錢

本邦の天然地理、人事地理、地方誌の三項を新の事實に據り確實の統計を基とし、組織巧妙、叙述簡潔、意到り筆隨ひ、説き盡くして餘蘊なし、且つ彼の臺灣と北海道に至つては立論奇抜にして説明詳密なり、中等教育の参考書、教科書として世上他に比類あるを見ず、本邦に生れて此邦土の有様を知らんとするの人士は、一本書を購ふて新地理學の眞價値を評するに怠る勿れ

一に歐洲最新式の地理書を參酌し、每編美麗なる精密地圖寫眞版等數多を挿入し、各地方に於ける山系、水系、湖澤、港灣等の形勢及氣象を詳述し、又各地の史蹟を地理的に描寫して、古今興亡の沿革を明にし、其他行政司法、軍事、教育、宗教、交通の狀勢を録する詳かに、産業部に於ては、農業、工業、商業、鑛業、林業、水産の六部に分類して、地方の特業を記述し、各地の名勝古蹟は素より、總て其材料の豊富なる調査の精確なる、卷冊の浩澗なる、製本の美麗なる、一として間然する所なく、全部拾卷總紙數約壹萬頁、而して編者山崎、佐藤の兩先生は斯學專攻の大家にして、尙助手として聘するに知名地理家數學士を以てす、眞に本邦空前の大地理書たり。

理學士 山崎直方、佐藤傳藏君共編

大日本地誌

全拾卷

大判洋裝背皮
クローヌ製本

第一卷

第二卷

第三卷

第四卷

第五卷

第六卷

{刊既}

第七卷

第八卷

第九卷

第十卷

琉球及臺灣

北海道

關東

中部

近畿

陸奥

北陸

四國

九州

大日本地誌は全く在來の地誌と其目的方針を異にし地文の關係を説くや、極めて詳密極めて明晰なり、其體式は、

理學士 佐藤傳藏君著

第八版

萬國新地理

洋裝大判並綴
正價金四拾錢
郵稅八錢

▲特製洋布上綴正價五拾五錢、郵稅拾錢

本書は一般人士に向つて世界新地理學の要領を會得せしめんが爲めに最新の統計、最新の事實、最新の組織を以て、編纂されたものにして中等教育地理専門家を始め一般學生又は實業家の參考に最適の良書たるを信ず、殊に本書の特色とする所は本邦に尤も關係多き東洋地理に重きを置き從來の撰に倣はざるにあり

理學士 山崎直方、佐藤傳藏君共編

大日本地誌

全拾卷

大判洋裝背皮
クローム製本

第一卷

關東

定價金二圓五十錢、郵稅十五錢

第二卷

奧羽

定價金二圓五十錢、郵稅十五錢

第三卷

中部

定價金二圓五十錢、郵稅十五錢

第四卷

近畿

定價金三圓、郵稅二十錢

第五卷

北陸

第七卷

四國

第九卷 北海道

第六卷

中國

第八卷

九州

第十卷 琉球及臺灣

{刊既} 大日本地誌は全く在來の地誌と其目的方針を異にし地文の關係を説くや、極めて詳密極めて明晰なり、其體式は、

理學士 佐藤傳藏君著

第八版

萬國新地理

洋裝大判並綴
正價金四拾錢
郵稅 八錢

▲特製洋布上綴正價五拾五錢、郵稅拾錢

本書は一般人士に向つて世界新地理學の要領を會得せしめんが爲めに最新の統計、最新の事實最新の組織を以て、編纂されたるものにして中等教育地理専門家を始め一般學生又は實業家の參考に最適の良書たるを信ず、殊に本書の特色とする所は本邦に尤も關係多き東洋地理に重きを置き從來の撰に倣はざるにあり

法學士 山本信博君著

○政治地理學 全

大判洋裝並
正價金四拾錢
郵稅拾錢

▲特製洋布上綴正價金五拾五錢

○清國商業地理 全

大判洋裝並
正價金四拾錢
郵稅拾錢

▲特製洋布上綴金五拾五錢

○韓國新地理 全

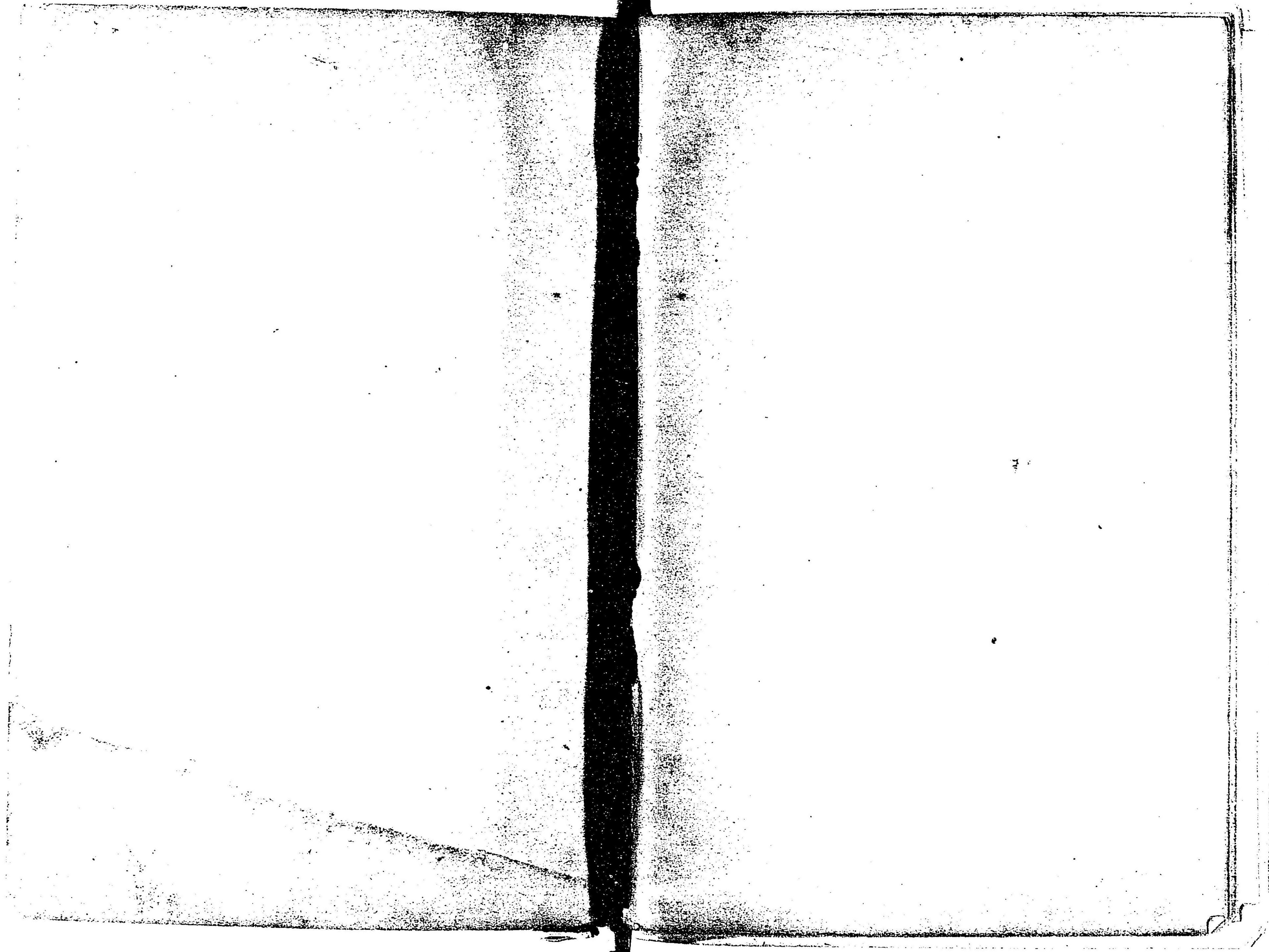
大判洋裝上綴
正價金四拾錢
郵稅拾錢

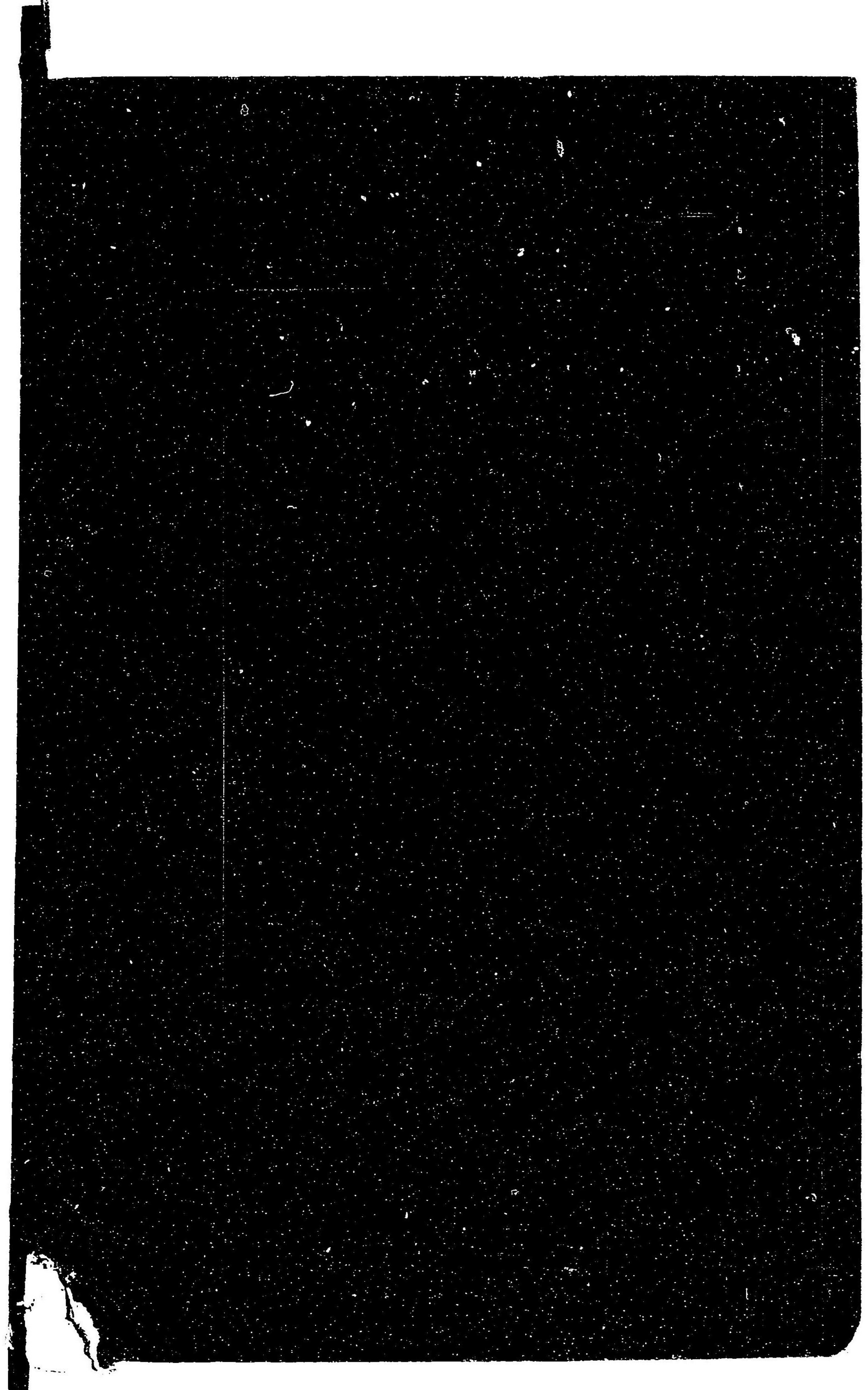
▲特製洋布上綴金五拾五錢

○訂改日本商業地圖 全

縱一尺二寸
橫九寸五分
定價金壹圓貳拾錢 郵稅拾五錢

理學士 吉田弟彦君著





049583-000-2

特61-212

新撰日本地理問答(改訂増補)

上村 貞子/編

M39

BEM-0279

